

学生担当理事・副学長 川添信介 殿
学生生活委員会 御中

話し合いのあり方についての要求書

2018 年 4 月 12 日
吉田寮自治会

吉田寮自治会は、現棟老朽化対策に向けた話し合いを早急に進めるべく、「吉田寮生の安全確保についての基本方針」（2017 年 12 月 19 日付）が出される前から、大学当局との話し合いを求めてきた。しかし、川添信介理事は、「吉田寮自治会が団体交渉を希望した場合は、それに応じる」という確約（2015 年 2 月 12 日に締結）を無視し、話し合いに条件を課し、それに固執することで、その開催を不必要に遅延させている。吉田寮自治会は、ここであらためて、確約に基づいたこれまでの形式での話し合いを要求する。あわせて、早急な話し合いの開催に向けて、川添理事の提示する条件が是正されれば、その話し合いに応じる構えがあることを表明する。

川添理事が「吉田寮自治会との話し合いのあり方等について」（2016 年 3 月 7 日付）で求める話し合いの形態は以下のとおりである。

1. 一回の話し合いの時間は 2 時間以内を原則とする。
2. 吉田寮自治会から話し合いに参加する寮生の人数は 10 名以内を原則とする。また、京都大学側から参加する人数は自治会側の参加者数を超えないものとする。
3. 参加者は話し合い冒頭において、氏名・所属身分・役職などを相手に通知するものとする。
4. 京都大学と吉田寮自治会は話し合いごとにそれぞれの代表者を定め、その旨を他方に通知するものとする。
5. 話し合いにおいては双方の代表者が協議を主導するものとする。ただし、他の参加者は代表者の許可を得て発言することはできる。
6. なお、京都大学は吉田寮に関する諸課題について、いつでも吉田寮自治会と話し合う用意のあることを付言しておく。

以上の条件について、その問題点を踏まえ、寮自治会としての要求をまとめる。これについて、学生生活委員会などで真摯に検討したうえで、寮自治会との話し合いに早急に応じることを要求する。

I. 公開の原則の徹底

京都大学の福利厚生施設や様々な課外活動の拠点としての役割を吉田寮が持つ以上、話し合いの内容は、すべての関心のある当事者に開示されてしかるべきである。これは民主的な決定のための前提となる。そして、「いつ、どこで、何について、どのように話し合いが行われたか」などの情報を構成員や関係者に伝える最も単純かつ効果的な方法が、話し合いの現場をその者らに公開することであるのは自明である。話し合いを密室の場で行い、当事者を話し合いの場から排除することは、大学という場の社会的役割とそれにとまなう説明責任を軽視したものであり問題である。そこで、吉田寮自治会は、交渉に際して傍聴を希望する者を受け入れることを求める。

II. 個人情報開示にあたってのルールの設定

身分の保障がある程度なされている教職員と、そうではない学生の立場には、埋めることができない権力差がある。そうした状況で、氏名・所属身分・役職などを開示することは、当該学生に教職員や第三者から、有形無形の圧力がかかることにつながりうる。そして、こうした圧力を利用した交渉の恣意的な誘導を大学当局が行うことが懸念される。そこで、交渉に際して、学生側の氏名開示は必要ないという立場をあらためて表明する。それでもなお、大学当局が交渉出席者の氏名等の開示が必要だと主張するのであれば、そこで明かした個人情報の記録の取り扱いについて、第三者には知れ渡らないように配慮するといったルール・ガイドラインを寮自治会と合意のうえ定めることを求める。

最後に、吉田寮自治会は、現棟の老朽化対策の速やかな実施のために、大学当局との話し合いの開催を切に求めていることをあらためて表明する。大学当局が、話し合いの早期開催に向けて建設的かつ合理的な判断を下し、今回吉田寮自治会が提示した2項目に誠意ある応答をすることを望む。